

リハビリテーション医学教室開講のご挨拶

大阪医科大学総合医学講座
リハビリテーション医学教室 教授 佐浦 隆一

小野村敏信先生(現大阪医科大学名誉教授)を初代センター部長として、昭和56年に大阪医科大学附属病院にリハビリテーション(以下、リハ)センターが開設され、富永通裕先生(現大阪医科大学功労教授)が初代センター室長に就任されて以来、リハセンターは大学病院としての特性を活かした急性期リハを中心に提供して参りましたが、この度、急増するリハ医学へのニーズに応えるべく、臨床の充実、医学教育の向上、研究の発展を目標に平成20年5月1日をもって総合医学講座リハ医学教室に昇格し、私が運営を担当させていた

だくことになりました。

ご存じのように、リハ医学は、様々な運動・精神障害を負った方々に対して、発症直後から地域に戻るまで横断的、かつ切れ目のない介入を行ない、その人がその人らしく生きていくための、お手伝いをさせて頂くことを目標としています。これまで、リハ=後療法という時代が長く続きましたが、リハ前置主義となり、廃用症候群の発症予防を目的とした急性期からのリハ介入がいかに重要か、適切な時期における回復期リハが運動機能予後をどれほど大きく改善するかということが認知されてきています。

このような追い風の中、リハ科としての専門性と臨床力を磨き上げ、急性期から回復期、さらには維持期にいたるまで質の高いリハ医療を提供できるようになりたいと思っています。また、リハ医学を担う優秀な人材育成を目的に、卒前・卒後の医学教育の向上にこれまで以上に注力したいと考えています。一方、研究面では、再生医学との連携など先端的なリハ研究を探索し、急性期から地域リハに至るまで、様々な領域での協働を進めたいと考えます。

まだまだ未熟な新しい教室ですが、大阪医科大学はもとより近畿地方のリハ医学のさらなる発展に粉骨砕身、努力していきたいと、教室員一同意気込んでおります。今後とも、これまで以上に、ご指導、ご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

**平成20年度に新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。
専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にける情熱は大きく、これからの近畿地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。**

新専門医の抱負

三原 雅史 森之宮病院神経リハビリテーション研究部

私は平成11年に大阪大学神経内科教室に入局後、主に神経変性疾患、脳卒中といった神経疾患を中心に診療を行ってきました。神経筋疾患に悩む患者さんに接する中で、リハビリテーションの重要性を痛感し、研修を重ねてきました。現在の勤務地である森之宮病院では脳卒中患者を中心とした回復期リハビリテーションを受け持っており、慢性期、維持期へのスムーズな連携に苦心しております。

リハビリ医療を取り巻く環境は、度重なる医療制度改革によって大きく変化しています。そのような中で、リハ医にはリハビリテーションの効果、リハ制度改革に伴う影響などを、科学的な視点に基づいて示すことが求められており、私もリハビリテーション専門医の一員として、微力ではありますが今後のリハ医療の発展に少しでも貢献していければと考えております。これからも引き続き先輩方のご指導を受けつつ研鑽に励んでいく所存ですので、今後ともよろしくお願いいたします。

伊豆 敦子 東浦平成病院院長

現在、淡路島にあります200床の一般・回復期・療養病棟からなるケアミックス病院で勤務しております。元々は内科呼吸器科でしたが、平成5年にリハビリテーション認定医となり主に高齢者の慢性期リハビリテーションを担当していました。回復期リハビリテーション病棟を開設するにあたり、一念発起し専門医への移行試験を受け平成19年11月に1500番目のリハビリテーション専門医に認定されました。

全国的にも高齢化が深刻な問題となっている昨今ですが、ここ淡路島では全国平均を大きく上回る高齢化率(30%超)となっています。そのため入院患者の85%が超高齢者となり、その超高齢者の多くは脳血管疾患や運動器疾患等多くの疾患をかかえておられる為、リハビリテーションは必須となります。理学療法士9名、作業療法士4名、言語聴覚療法士4名と協力して地域に根ざした長生きしてよかったといってもらえるような地域医療を展開していきたいと考えています。今後ともご指導のほど、宜しくお願いします。

南部 誠治 大阪市立大学大学院 医学研究科 リハビリテーション部

大阪市立大学の南部と申します。平成9年に整形外科の医局に入局し、整形外科医として急性期の医療に携わっていました。当然整形外科の術後のリハビリテーションには関わってきた訳ですが、本格的にリハビリテーションに携わるようになったのは大阪府立身体障害者福祉センター附属病院に配属されてからのことです。このときはじめて医療者の立場として重度の脳卒中や脊髄損傷の方々に接することとなり、その後リハビリテーションの道に進むことになりました。今回新たにリハビリテーション科専門医として認定していただくこととなりましたが、まだまだ経験も浅く知識も不足している状態です。今後は少しずつ経験を積みながら広く知識を吸収し、リハビリテーション科専門医として患者さんのADL・QOL向上の役に立つよう努力していきたいと思っています。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

居相 浩之 (医)居相整形外科

今回リハビリテーション専門医に認定して頂きました。私は、昭和59年高知医大を卒業し、手の外科学を専門とし、平成12年より大阪茨木市で無床診療所を開設しています。現在、手狭ながら運動器リハビリテーションをおこなっています。同門の高知大学リハビリテーション部の石田先生の勧めで、専門医にさせていただきました。開業医にとっては、リハビリテーションは、厚生労働省の目の仇の如き扱いをうけているようですが、実は患者様にとって一番頼りにされている治療方法だと思います。これからは、リハビリテーションの効用をもっと周知させて、この分野の大切さを世間に理解していただくために、頑張ろうと思っています。よろしく願いいたします。